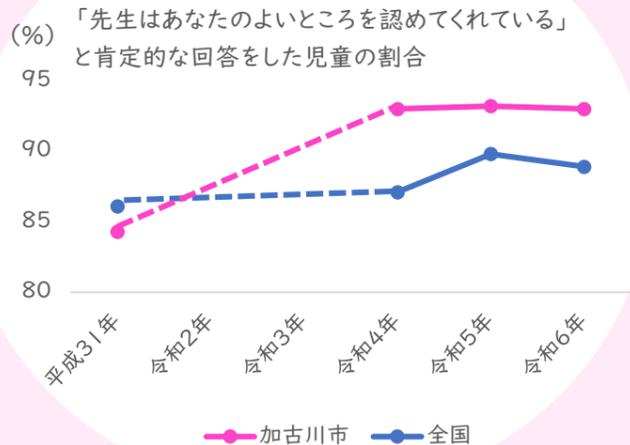
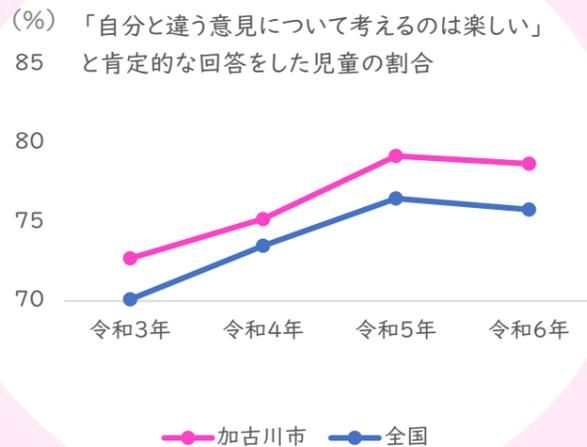
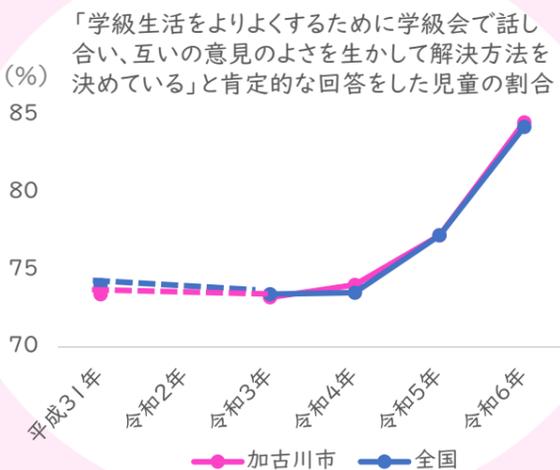


調査の経年変化から見た成果



※点線部分は児童質問紙調査で項目のなかった年です

- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は、令和3年度と比べて増加しています。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的な回答をした児童の割合は、平成31年度と比べて、増加しています。
- ・「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と肯定的な回答をした児童の割合は、平成31年度と比べて、増加しています。

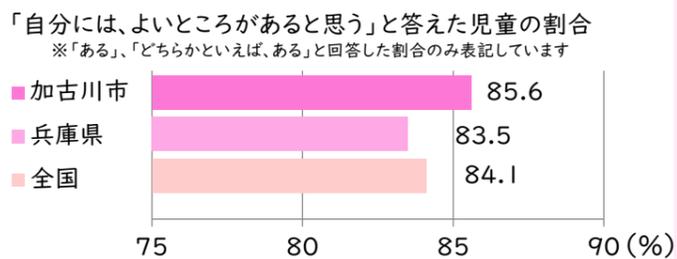
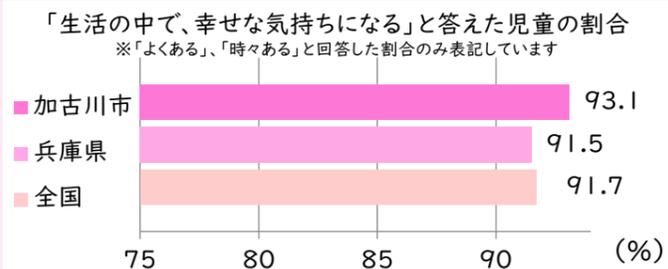


「協同的探究学習」が育む子どもの「わかる学力」と「自己肯定感」

「協同的探究学習」とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人一人の子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。

これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「わかる学力」や自分のよいところを認める「自己肯定感」が重要になります。

協同的探究学習により、一人一人の「わかる学力」や「自己肯定感」が育ち、これからの人生を歩んでいくうえで大切なウェルビーイング(幸福度)も高まります。



加古川市教育委員会は、子どもたちの未来を切り拓く力を育むために「未来を拓く学び推進事業」に取り組んでいます。

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000



←未来を拓く
学び推進事
業について



←全国学力・
学習状況調
査について
(概要)

保護者のみなさんとともに考える

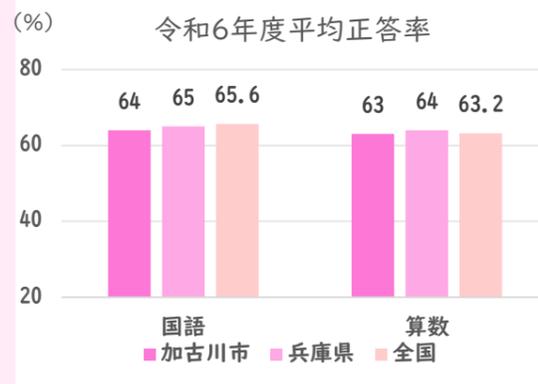
加古川市の学力・学習状況(小学校)

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果より

※小学校には義務教育学校
前期課程を含みます



加古川市の子どもたち



令和6年4月、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査は、児童の学力・学習状況を分析し、成果と課題を把握することで、授業改善を図ることを目的としています。

今回の調査における加古川市の子どもたちの現状を分析し、結果をまとめました。

教科に関する調査結果

- ・兵庫県や全国平均と比較すると同程度でした。
- ・国語では「読むこと」に課題が見られました。
- ・算数では記述式問題の正答率が高まり、「協同的探究学習」の成果が表れてきています。

生活に関する調査結果

- ・自己肯定感の高い児童が多いことがわかりました。
- ・学校生活に満足している児童が多いことがわかりました。
- ・地域や社会をよくしたいと考えている児童が多いことがわかりました。

友だち関係に

満足している
94.0%
(全国91.1%)

先生はあなたの

よいところを
認めてくれている
93.0%
(全国89.9%)

自分には

よいところがある
85.6%
(全国84.1%)

学校に行く

のは楽しい
87.2%
(全国84.8%)

地域や社会を

よくするために
何かしてみたい
85.7%
(全国83.5%)

児童質問紙で肯定的に
回答した割合の高い設問より

掲載している内容は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、今回の結果をもとに、授業改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていききたいと考えています。



調査結果から見た成果と課題

国語

感想や意見、理由を自分の言葉で表現しよう

小学校→
国語問題



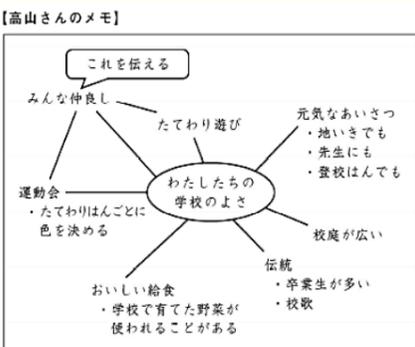
【書くこと】

情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができています。

【読むこと】

物語から人物像や物語の全体像を想像し、自分の考えを理由と合わせて言葉で表現することに課題があります。

大問2ー(2) 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する問題



[正答率] 86.9% (全国86.9%)

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができています。

選択肢

- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる
- 2 中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる
- 3 似ていることからまとめて丸で囲んでいる
- 4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる



算数

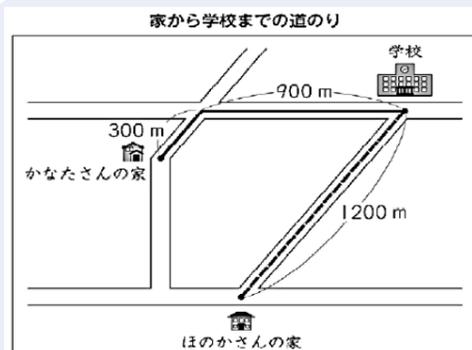
学習してきた知識・技能、経験をもとに自分の考えを深めよう

小学校→
算数問題



【変化と関係】

日常生活の中にある示された場面を解釈し、道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題があります。



大問4三 家から学校までの道のりが等しくかかった時間が異なる2人の速さについて、どちらが速いか判断し、その理由を書く問題

【正答例①】時間と速さの関係に着目した解答
 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。かなたさんとはのかさんが歩いた道のりは、1200mと同じです。
 かかった時間は、かなたさんの方が短いので、道のりが同じ場合は、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんの方が速いです。

【正答例②】分速を比較した解答
 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900+300=1200$ で、1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200 \div 20 = 60$ で、分速60mです。
 ほのかさんのあるく速さは、 $1200 \div 24 = 50$ で、分速50mです。だから、かなたさんの方が速いです。

[正答率] 33.1% (全国 31.0%)

【数と計算】

除数が小数である場合の除法の計算ができています。

大問4(1) $540 \div 0.6$ を計算する問題

【問題】 $540 \div 0.6$
【正答】 900

[正答率] 79.4% (全国 70.1%)

今後は、 $540 \div 0.6$ は、 $5400 \div 6$ と商(答え)が等しくなるなど、計算の意味や、どうしてそのようになるのかを考えて、計算できるようにすることが大切です。



・正答には、①時間と速さの関係に着目した解答や②分速を比較した解答の両方において、全国よりも正答率が高い結果でした。
 ・ふだんの授業などで自分の考えが認められる場面や、多様な考えにふれる場面があり、これまで取り組んできた協同的探究学習の考えによる授業づくりの成果が見られます。

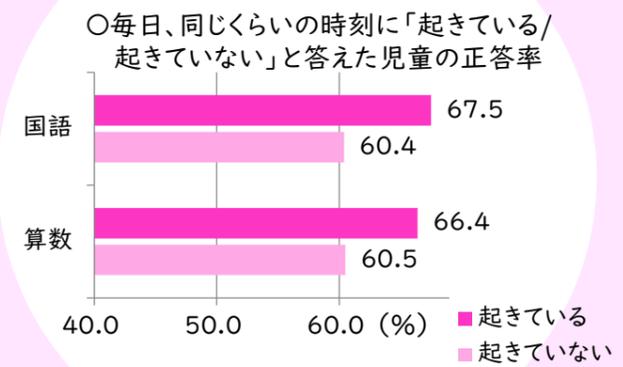
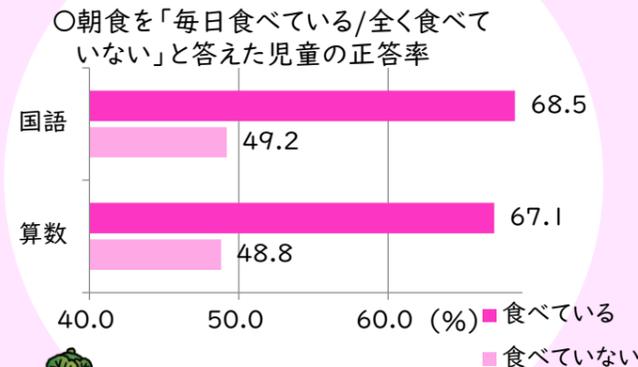
正答率が全国と同様に3割程度であることから、今後も道のりと速さ、時間との関係について、多様な考えから理解を深めていきましょう。

学力と生活習慣



ご家庭においても、お子さんの頑張りを認め、これからご家庭でできることについて話し合ってみてください。

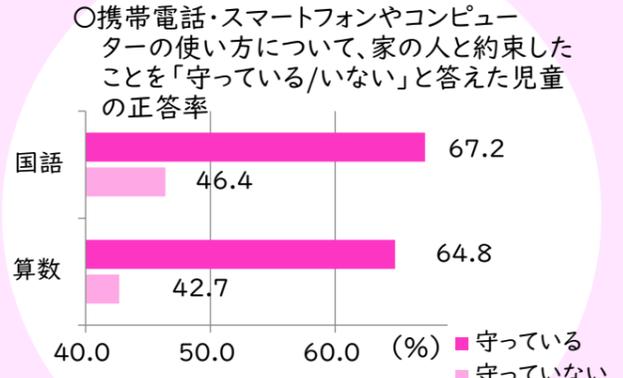
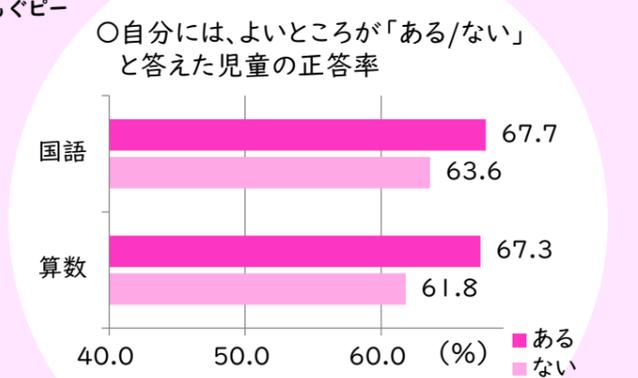
生活のリズムを見直そう



加古川市食育マスコット もぐピー

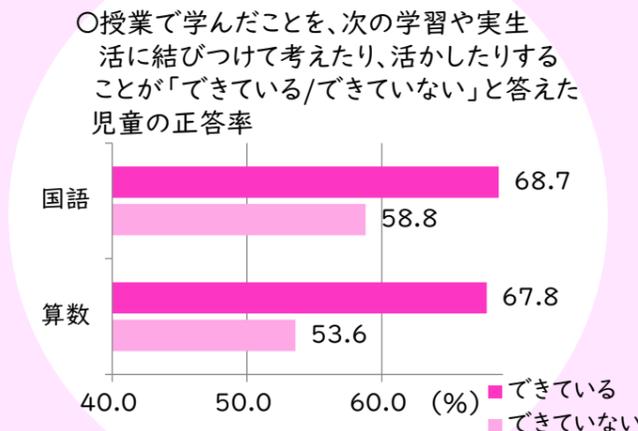
毎日、朝食を食べている児童や、同じくらいの時刻に起きている児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。睡眠や食事を通じて生活のリズムを整えることが、体や心を健康に保ち、確かな学力を高めることにもつながります。

家族との会話を大切にしよう



自己肯定感の高い児童や、家族と決めた約束を守っている児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。ご家庭で子どもと話をする時は、子どもの話に耳を傾け受け止めることや、様子を粘り強く見守り、努力を認め、褒めるなど、子ども自身が自分にはよいところがあると実感できるように関わるのが大切です。また、ご家庭のルールについては、きまりがある理由などを家族で一緒に考えることも大切です。

自分で目標を決め、学習を計画的に進めましょう



○いつでも積極的に読書ができるように、電子図書館に児童用電子書籍(読み放題)を導入しています。
 利用者IDとパスワードは子どもたちが持っていますので、ぜひ家庭でもご覧ください。



児童用電子書籍(読み放題)



加古川市まちの魅力発信キャラクター かこのちゃん

授業で学んだことを活かそうとしている児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。漢字や計算の繰り返し練習や、授業で考えたことをご家庭でも話し合うなど、毎日少しずつでも学習のふりかえりに取り組むことが大切です。また、図書館を利用したり、親子で同じ本を読んで感想を伝え合ったりすることもよい取組です。